



## <オリエンテーション号>

# ユネスコスクール × スーパーグローバルハイスクール (SGH) = ESD・進路観



中部大学春日丘高校は、平成26年度にパリに本部のある「ユネスコ」より「ユネスコスクール」に指定され、さらには平成27年度から平成31年度まで文部科学省より「スーパーグローバルハイスクール」に指定されています。この2つのプロジェクトを介した本校の取組には共通の教育理念があります。それは「ESD」です。

### 【ESD】

「ESD」とは「Education for Sustainable Development」の略語であり、日本語では「持続可能な開発のための教育」となります。「ESD」はユネスコ（国際連合機関、本部はフランスのパリ）で発足し、「社会の持続性」をテーマに、「人権」、「平和」「貧困」「環境」、「エネルギー」、「食糧」、「人口の高齢化」といった社会問題の解決を目指す教育です。最近では、ESDをより具体的に実践するために、国連がSDGs（持続可能な開発のために2030年までに克服すべき17の目標）を掲げています。春日丘が所属する学校法人中部大学は「中部地区のESD拠点校」であり、学園をあげて「ESD」に取り組んでいます。



### 【ユネスコスクール】

「人権」、「平和」、「人口」、「食糧」、「エネルギー」、「環境」などの分野で「持続可能な開発のための教育 (ESD)」を実践していると「ユネスコ」に認定された学校。

### 【スーパーグローバルハイスクール】

文部科学省より、スーパーグローバルハイスクール事業（大学・企業・国際機関等と連携し、課題探究学習を実践しグローバル人材を育成するカリキュラム開発）を委託された学校。全国で123校が指定されている。本校は、製造業の多い「ものづくり愛知」とゆかりの深い「アジア・アセアン諸国」を主な対象地域としてESDの理念とともに「国際開発」「ビジネス」「環境・エネルギー」「医療・福祉」の4領域を課題探究分野にしています。

ESDは日常の授業でも各教科の単元の中で実践されていますが、本校はSGHの指定を機に、「総合的な学習の時間」を学校設定科目「グローバル課題研究」にかえ、課題探究学習を実施しています。時には「参加型のグループ学習」で、時には「個人学習」でグローバル社会や地域社会の課題を考え、自分の意見を発信する「主体性」と「将来の進路観」を養います。

## ●【主な取組紹介】

- ◆グローバル講演会（4月・10月）： グローバル社会で活躍している方をお招きし、国際化が進む社会で生きていくために大切なことを学ぶ。
- ◆参加型国際理解学習（グローバル課題研究）：ワークショップ形式で人類共通の課題（人権、環境、開発、共生、平和）について学び、協働学習を行う。
- ◆外部講師を招いた学習（グローバル課題研究）：大学、企業、国際機関、外国人留学生等を招き、講演や交流を通じて、社会の持つ課題の知識を広げる。
- ◆校外学習：国際開発、ビジネス、医療・福祉、環境エネルギーの4領域に分かれて班別行動で課題探究学習をする。（国際・啓明・特進コース） ＊進学コースは芸術鑑賞
- ◆研修旅行
  - (1) 沖縄研修：沖縄戦や現在の米軍基地問題における「人権と平和」の問題や、「開発と環境（観光、軍事基地開発と珊瑚礁の白化、生態系の変化）」の問題を学習し、社会が崩壊せずに持続的に発展していくための問題意識を深める。（進学、特進コース2年生）
  - (2) アセアン諸国研修：社会問題（雇用、エネルギー、環境問題、経済、男女の機会均等など）を学び、日本の社会問題と照らしあわせ、社会が持続的に発展していくための問題意識、改善策を考える。
    - ・シンガポール研修（啓明コース2年生）・・・10月実施
    - ・インドネシア研修（国際・啓明コース2年生対象 希望者）・・・8月実施
    - ・ベトナム研修（国際2年生対象、啓明、進学、特進コース1，2年生対象、希望者）・・・3月実施
  - (3) オーストラリア研修：ホームステイ・語学研修プログラムを通じて、オーストラリアの文化に触れながら英語力を高める。（国際コース1年生）・・・1月～3月
  - (4) オーストラリア短期留学：ホームステイ・語学研修プログラムを通じて、オーストラリアの文化に触れながら英語力を高める。（全コース対象）・・・3月下旬
  - (5) グローバルミーティングプログラム：米国・カナダ・オーストラリア・インドネシア・ベトナムから高校生を招き、ホームステイ&文化交流&課題研究発表会を実施。12月13日～16日（3泊4日）

A-1



### ◆ユネスコ職員の言葉

「ESDを通じて社会に対する問題意識を深め、自然において、社会において、将来こんな仕事がしたいと自分の未来像を描ける若者を育てたいですね」